

離島と都市部の中学校体育における内発的・外発的 ・非動機づけの比較検討

著者	藤田 勉, 小林 稔, 廣瀬 勝弘, 具志堅 太一
雑誌名	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要. 特別号
巻	5
ページ	15-18
別言語のタイトル	Comparison Study of Intrinsic motivation, Extrinsic motivation and Amotivation in Physical Education of Junior High School between Isolated Islands and Urban Areas
URL	http://hdl.handle.net/10232/8939

離島と都市部の中学校体育における内発的・外発的・非動機づけの比較検討

藤田勉* 小林稔** 廣瀬勝弘* 具志堅太一**

Comparison Study of Intrinsic motivation, Extrinsic motivation and Amotivation in Physical Education of Junior High School between Isolated Islands and Urban Areas

FUJITA Tsutomu, KOBAYASHI Minoru, HIROSE Katsuhiko, GUSHIKEN Taichi

1. はじめに

生涯にわたりスポーツや運動を長期的に取り組んでいく、運動に対する、適応的な動機づけを高めることにより運動継続を促すことのみならず、不適応な動機づけを低下させることにより運動からの離脱を防ぐことが重要になる。

本研究は、離島と都市部の中学生の体育授業における動機づけを比較検討するものである。具体的には、内発的動機づけ、外発的動機づけ、非動機づけという全ての種類の動機づけを測定し、適応的な動機づけのみならず、不適応な動機づけについても、離島と都市部の中学生の違いを検討する。これまでの研究（例えば、藤田・小林, 2008）からは、児童生徒の運動意欲は離島と都市部ではほぼ変わらないことが示されてきたが、いずれも、動機づけの適応的な側面を比較するものであり、不適応な側面については検討されていない。そこで本研究では、離島と都市部の中学生を対象として、内発的動機づけ、外発的動機づけ、非動機づけという全ての種類の動機づけを比較検討することを目的とする。

2. 方法

2-1. 研究方法と調査対象

研究の方法は郵送法による質問紙調査法であった。調査対象は、調査を依頼し協力が得られた沖縄県本島都市部の中学校1校、沖縄県離島の中学校2校、鹿児島県離島の中学校2校の1年生から3年生533名であった。なお、沖縄県及び鹿児島県の離島の調査協力校は、3～4学級で構成される学校であった。

2-2. 調査期間

2008年11月中旬～2009年1月中旬

*鹿児島大学教育学部 **琉球大学教育学部

2-3. 統計解析

質問紙調査によって得られたデータについて、各尺度の信頼性の検討として内的整合性 (α 係数) を求め、統計量と相関行列を算出した。離島と都市部の各尺度得点の平均値を比較するために、t検定を行った。これらの処理には、SPSS12.0を使用した。

2-4. 質問項目

動機づけを測定する項目

動機づけを測定する項目には、体育授業で運動をする理由をたずねる項目（「私が体育授業で運動をする理由は、～」という質問に続く項目について当てはまる程度を回答する）として、藤田ほか（2008）で作成された尺度を参考にして、内発的動機づけ（運動すること自体を目的としている）、同一化的調整（運動することを目的獲得の手段とするが、運動することを重要だと考えている）、外的調整（外的環境から運動することを強制させられている）、非動機づけ（運動することに対する価値が欠損している）の4つの尺度を作成した。これまでの研究（例えば、藤田ほか, 2008; Lim & Wang, 2008）からは、内発的動機づけと同一化的調整は自律性の程度が高く運動継続を促す適応的な動機づけとであることがしめされており、外的調整や非動機づけは自律性の程度が低く運動からの離脱を導く不適応な動機づけであることが示されている。

各項目への回答方法は、「全く当てはまらない」から「非常に当てはまる」の5段階による評定尺度法とした。尺度の信頼性の検討として内的整合性を求めたところ、内発的動機づけは、 $\alpha = .85$ （項目例として、「夢中で運動するときの感覚が心地よいから」など）、同一化的調整は、 $\alpha = .81$ （項目例として、「健康的な生活を送りたいから」など）、外的調整は、 $\alpha = .85$ （項目例として、「運動をしないと、クラスの雰囲気になじめなくなるから」など）、非動機づけは、 $\alpha = .81$ （項目例として、「よく分からない。運動することに価値を感じない」など）であった。

3. 結果

3-1. 基本統計量及び相関行列

各尺度得点の平均値と標準偏差、各尺度間の相関行列を表1に示した。各尺度間の相関について、内発的動機づけと同一化的調整、外的調整と非動機づけには、中程度の正の相関が示され、内発的動機づけと非動機づけには中程度の負の相関が示された。これは、内発的動機づけが高い（低い）生徒は同一化的調整も高い（低い）ということ、外的調整が高い（低い）生徒は非動機づけも高い（低い）ということ、内発的動機づけが高い（低い）生徒は非動機づけが低い（高い）ということを示している。これらの尺度間の相関関係は、動機づけの自己決定理論（Deci & Ryan, 1958; 1991）の仮説に基づいて尺度を作成した藤田ほか（2008）の研究と同様の結果であり、ほぼ妥当な尺度として解釈される。

表1. 各尺度の基本統計量と相関行列

	平均値	標準偏差	1	2	3	4
1 内発的動機づけ	11.21	2.61	—			
2 同一化的調整	11.53	2.50	0.45	—		
3 外的調整	6.53	2.74	-0.17	-0.06	—	
4 非動機づけ	5.84	2.49	-0.40	-0.21	0.40	—

3-2. 離島と都市部の比較

各尺度得点の比較

離島と都市部の内発的動機づけ、同一化的調整、外的調整、非動機づけの違いを検討するため、各尺度得点の平均値をt検定により比較したところ、どの尺度についても有意な差は示されなかった。これは離島も都市部も中学生の適応的な動機づけ及び不適応な動機づけの高さは変わらないことを意味している。

表2. 各尺度得点についての離島と都市部の比較

	離島			都市部			t	p
	n	平均値	標準偏差	n	平均値	標準偏差		
内発的動機づけ	259	11.06	2.58	274	11.36	2.65	1.32	0.19
同一化的調整	259	11.55	2.41	274	11.51	2.59	-0.17	0.86
外的調整	259	6.51	2.64	274	6.54	2.84	0.11	0.91
非動機づけ	259	5.97	2.34	274	5.73	2.62	-1.13	0.26

4. 考察

本研究では、離島と都市部の中学校体育における内発的動機づけ、外発的動機づけ、非動機づけという全ての種類の動機づけを比較検討した。その結果、全ての種類の動機づけについて両者の差は示されなかった。これは、離島も都市部も中学生の体育授業における適応的な動機づけ及び不適応な動機づけの高さは同レベルであることを意味している。本研究の結果に加え、藤田・小林（2008）の研究をはじめとする一連の研究結果を総括すると、離島と都市部における児童生徒の運動意欲あるいは運動に対する動機づけには大きな差はないという結論になる。

離島と都市部の児童生徒の違いを経験的に感じ取っている教員もいると思われるため、最後にデータの解釈について説明を加えたい。本研究の分析方法は、平均値の違いを検討することにより、おおよその傾向を明らかにするものであった。したがって、このケースに当てはまらない児童生徒も存在する。しかしながら、分析されたデータは、教師による評価ではなく、児童生徒の自己評価である。経験的な見解と本研究の結果にズレがあると

感じられるならば、教師による評価と児童生徒の自己評価は一致するものではないということになる。すなわち、本研究及びこれまでの研究の結果からは、教師からの視点ではなく、児童生徒からの視点により、体育授業における動機づけの実態が明らかにされ、離島あるいは都市部に関わらず、児童生徒の体育授業に対して抱く欲求や動機は変わらないことが示されたと解釈できると考えられる。

付記

本研究の趣旨にご賛同し、ご協力下さいました生徒の皆様、各中学校の先生方に深く感謝申し上げます。

文献

- Deci, E.L., & Ryan, R.M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York: Plenum Press.
- Deci, E.L., & Ryan, R.M. (1991). A motivational approach to self: Integration in personality. In R.A. Dienstbier (Ed.), *Nebraska symposium on motivation: Perspectives on motivation* (Vol.38, pp. 238-288). Lincoln: University of Nebraska.
- 藤田勉・小林稔 (2008). 複式学級と単式学級における児童の運動意欲の比較検討. 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 特別号 4号, 75-78.
- 藤田勉・森口哲史・徳田清信・溝田さと子・山下健治・浜田幸史 (2008). 運動参加意図を予測する中学校体育における動機づけモデルの検討. 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 第 18 卷, 21-31.
- Lim, B.S.C & Wang, C.K.J. (2008). Perceived autonomy support, behavioural regulations in physical education and physical activity intention. *Psychology of Sport and Exercise*, 10(1), 52-60.